

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

2 学期終業式にあたって

2学期終業式で生徒の皆さんに話した原稿をアップします。前半は「二松だより」と重複するので後半部分を紹介します。あらためて、この紙面で確認してください。

令和4年も終わりを迎えます。今年も多くのニュースが国内・国外でありました。その年の世相を表すのに漢字1文字で表現する企画があります。今年の漢字は知っていますか？今年「戦」が最も支持されたワードでした。2001年以来、2度目の登場です。2001年は皆さんが生まれる前でしたが、アメリカで起きた同時多発テロが起きた年でした。私も旅客機がビルに突っ込み、崩れ落ちるツインタワーの映像を記憶しています。

今年は、冬季オリンピックや一昨日閉幕したサッカーワールドカップなどスポーツの戦いが熱く繰り広げられましたが、2月に勃発したロシアによるウクライナ侵略、戦争がまさにその象徴でしょう。この問題は決して地球の裏側で起こっていることとして見過ごすことはできません。

この冬、日本では7年ぶりに電力消費の節減が求められています。それはなぜなのか、我々と身近な問題と環境問題とを併せて考えてみましょう。

ロシアのウクライナ侵攻が始まると日本や欧米各国はロシアへの経済制裁を行いました。このことは、食料などの価格上昇や世界のエネルギー事情を一変させることになりました。電力発電のため天然ガスをロシアからの輸入に頼っていたヨーロッパでは、天然ガスの供給が不安定になり価格が高騰したことから、発電のため石炭を再び活用する方針を打ち出すなど、これまで訴えてきた脱炭素社会の実現から逆戻りする状況が起きている国もあります。石炭などのいわゆる化石燃料が地球温暖化にマイナスであることは言うまでもありません。

私たちは今、エネルギー漬けともいえる生活を送っています。スイッチ一つで部屋を暖め、快適な暮らしを保っています。しかし、エネルギー資源に乏しい日本では、資源を他国からの輸入に頼っていますから、資源の不安定さは死活問題です。そのうえ、コロナ禍によるリモートワークなどで、「おうち時間」が増え、電力需要が高まり、おのずと電力不足が起きてしまっているのです。日本の節電との関係が結びつきましたか。

自分には関係ないと思う人もいるでしょうが、自分でもできることはないかなと考えてみてください。なにが一つはできるはず。私はポットのお湯は必要な量しか沸かさないように心掛けています。

それでは、少し長い冬休みに入ります。1月10日には元気で会いましょう。

部活動訪問 (3) ～ダンス部～

18日(日)中洲記念講堂で開催されたダンスバトルを観戦しました。ダンス強豪校が集う中、わが二松学舎は奮闘し、優勝と3位・4位を勝ち取りました。

初めてまじかに見るダンスバトルでしたが、3年生の解説を受けながら大会を観戦することができました。バトルというだけあって、一対一の対戦、DJ(今回は松澤先生でした)の選曲するミュージックに合わせて即興で振付を考え、相手に対して自己表現していくスタイルで、わずか30秒ほどのパフォーマンスを披露する競技。踊りのタイミング(先に踊るのか後にするのか)の駆け引きも見ごたえがありました。

顧問の先生方から自分の価値観をいかに相手に伝えるか、曲の理解などダンス表現に加え、総合的な力が求められるとの講評がありました。今回は1年生が活躍しましたが、曲やその日の調子によって、勝ち負けが逆転することもある、感性を磨いて取り組んでとのアドバイスもありました。皆さんお疲れ様でした。

